

本時のねらい

日常にある英語を見つける活動とおして、英語に親しみを持ち、英語への興味関心を高める。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・グーグルマップの英語 Ver.を利用して、今まで学習した英単語を活用する力を身につける。
- ・タブレットの撮影機能を活用し、街中の英単語を見つけようとする活動を通じて主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。
- ・見つけた英単語をインターネットを使って検索することで、日本語訳がわからない英単語を理解する活動を通して、情報活用能力を育てる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・生徒端末(カメラ機能)
- ・Google map

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	グーグルマップに出てくる英単語の確認。 GoogleMap で行先を入力し、学校からの経路設定をする。行先の大まかな位置を確認する。 【写真1】	英語 ver.の Google マップを使用することで turn left,right の語句を聞き取る練習をする。 GoogleMap の使い方は事前指導しているため、生徒が操作が分からなくなった場合のみ助言するようにする。
展開 (35分)	【駅に向けて出発。】 英語の看板や標識などを見つけたらその都度、立ち止まって撮影する。 【写真2】 【駅から戻り、教室にて活動】 写真を確認し、写真に写っている英単語をノートに書く。 Weblio を活用して意味を調べる。 【写真3】	使用しない時は手提げカバンに入れて落下防止に努める。 “ながら”使用をしないよう、周囲の安全にも配慮させる。 意味が複数ある単語については、教員と対話しながら、どの意味で使われているかを考える。
まとめ (10分)	どんなところに英語がたくさん見つかったかを考える。	英語表記が多い場所の特徴として、駅など利用者が多いところであることを気づかせる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真1】GoogleMap を使って目的地へ経路を調べている様子



【写真2】街中にある身近な英語表記の看板や標識などを見つけてカメラで撮影し記録している様子



【写真3】撮影した写真を見ながら見つけた英語をノートに書き写している様子

児童生徒の反応や変容

- ・授業を終えて以降、『気になった英語があるので調べたい』と自分から英語の授業で話をしてくれるようになった。
- ・たくさん人が集まる新大阪駅に行けば、もっと英語表記の看板や標識などが見つかるかもしれないと、さらに意欲をもって英語に触れられるようになった。
- ・英語に対して苦手意識があった生徒が、端末をうまく使えば英語は難しいものではないと感じることができ、苦手意識も和らいだ。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・生徒が興味のある電車を設定したことやタブレットを活用して写真を撮る活動を行うことで、主体的に英語に触れあうことができ、生徒の学習意欲が高まった。